

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第50号(20130809)

発行 竹田 幸男



例会の窓

平成25年8月例会

日時 平成25年8月9日(金)
13:30~16:30

場所 寝屋川市民活動センター
4階 ワーキングスペース

出席者：新井 石田 小林 竹下 竹田 谷 富田(50音順・敬称略)
欠席者：3名

例会次第

1 . 映写・合評

・今日はいつもと逆に作品の映写から始めた。

(1) 谷さん クマゼミの羽化 3分20秒 DVテープ

・クマゼミの羽化をトリミングして短い時間にまとめられた。

・カットされ繋がれた部分がわかりにくいので、思い切ってトランジションを有効に使うって時間の経過を示した方がいいのでは。

・羽化の場面までが 早すぎるのでは？

・もう少し長めに作ってもいいのでは。

(2) 新井さん はす酒を楽しむ 7分 (大阪アマチュア映像祭出品作) DVテープ

・関西ではここだけ、三室戸寺で年に一度だけ開催される「はすの葉」を使って酒を飲む行事の作品。

・製作 制作に訂正。

・「はす」と言うナレーションが 「す」と聞こえる。

(3) 小林さん 葵祭パレード 10分 DVD (撮影はAVCHD)

・行列通過経路を地図をいれて上手に説明されている。

・音楽が現代風すぎるのでは。見学者が多いので撮影するのに苦労されたと思われる。

(4) 竹下さん 三高 第百四十三回記念祭 記念大会 約40分の一部 BD

・2013年5月撮影。記念大会の一部を映写。手打ち場面、フィナーレ等。

・手ぶれもほとんどなく撮られたのには感心する。

(5) 富田さん 風の盆 7分30秒 DVD

・ナレーションがあった方がいいと思う。

・未編集だが、各シーンごとに良い所だけを残して編集されたらいい、と思う。

(6) 竹田さん 全山深紅 談山の錦 4分50秒

・紅葉の時期に撮影され、手ぶれもなくうまく撮影されている。

最初から最後まで、映像とBGMだけでも見入ってしまうほどの作品。

(7) 竹田さん あいつ 4分50秒

・既発表作品だが、撮影会の進めかたの説明のためと、小林さん、富田さん

に見て頂くために映写。

2. 各会員の最近の活動状況・情報交換

3. 報告・連絡・協議事項

(1) NVC Monthly 8月記事筆者の件(石田さん)

(2) 大阪アマチュア映像祭出品の件

竹田さん「琵琶湖疎水物語」10分 出品決定。

新井さん「はすを楽しむ」 7分 出品決定。

(出品料 本人5千円 会から 5千円補助、竹田分は映像寝屋川から支出)

(3) 市民文化祭作品を9月例会で締め切る。

・何を出品するか、各人ご用意を。

・一人1作品 10分以内。例会後9月20日まで持参可。

(4) ふれあいフェスタ対策

・11月9日(土)市民会館4Fと決定。

・今年の映像協会のテーマは、「がんばっている人(たち)」

・ロッカールームでの大映写と、展示スペースでの「映像図書館」を、このテーマを中心に行う。

・大映写は、沢山の参観を見込める会員数の多い団体の映像映写。

・映像図書館は会員の今までの作品を集めて、その中から個人的に見てもらおう。

・DVDプレイヤーまたはDVDレコーダーとテレビのセットを2-3セット並べ、ヘッドホンで視聴してもらおう。会員をサクラとして、本当の客が来たらサクラは退いて交代する。

(5) 来年の撮影(26年春?)について

・フリートーク

・何か食べに行っても?(以前黄檗山と普茶料理へ行った)

(6) クラブ間(留学)制度の提案

・クラブごとに内容に特色があり、よいところを吸収する。

・各クラブの活性化と会員の技術向上を目的に、他クラブへ一定期間(たとえば半年単位で)参加する。人数は・上限を設ける?

- ・ 留学先の例会、その他行事に、留学先会員とともに参加する。
- ・ 会費は無料にするか、その期間の半額程度を臨時に支払うか。

(7) 家族の病気・介護等で退会された方の復帰

- ・ 映像寝屋川では、入会費を免除して再入会を考えている。同好会でも考えては。

(8) 今年の忘年会は

- ・ 寝屋川市内にしてはどうか検討中。

4 . 会員の当面する問題点質疑応答

5 . 来月の開催日 (9 / 13) ワーキングスペースで。

6 次回のカメラ当番 (石田さん)



「いずれは ゴミだ！」

石田 昇

大昔？ 昭和35～36年はなんでも修理時代、特にオーディオの修理が得意だった。

レコード・プレーヤの修理も有り、テスト用にはドーナツ盤5、6枚で十分だったが、高級ステレオも除々に販売台数が増えだしたのは、この頃だったようだ。テスト用LP盤も必要になり、好きな曲「映画音楽特集、ダークダックス特集、Xマステ集」等買い揃えた。当時30年代後半は「超音響」ステレオの時代、価格は5～12万円と高価な贅沢品だった。電化センター展示場には高級ステレオがずらりと並んでいた。年一度恒例の展示品の入れ替えがあり、安く社内処分された。欲しいなー、勿体ないなー、音楽は好きだしー、無理して買う事に。我が家にも部屋の中央に「高級ステレオ」がドーンと座っていた。

昭和38年頃だった。趣味で毎月1、2枚レコードを買うようになった。テスト用、古いキズ有りもみんな処分で貰う。趣味でのレコード購入も5、6年は続くが、テレビを見たり、子育て等でレコードをかける機会はドンドン無くなった。

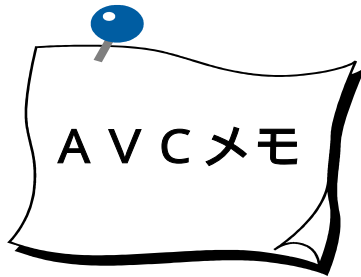
当時60枚位のレコードを持っていた。今も有るが、あの「高級ステレオ」は無い。定年退職後もう一度レコードと思い友人親戚に大PR、レコード下さーい！ プレーヤ下さーい！ 粗大ゴミの日は街中を走り回り入手した。最近



整理をしたらなんとドーナツ盤232枚、LP盤273枚、SP盤57枚、合計562枚も有った。外装ビニール袋を新しい物に替え、見た目は美しい。

プレーヤは8台（5台は使える、3台は要修理）、電蓄（アンプ付き）3台も何とか使える。時々出してアンプに接続、今日は何曲位掛けようかな？ 昔の曲は良いのが多いなー。ジャケットから出したり入れたり、邪魔くさいなー、時間が足りないよー、昼寝もしたいよー、後片づけも大変大変。こいつらは、いずれは粗大ゴミか？





「電気パン焼き器」追想

竹田 幸男

この「電気パン焼き器」とは、トースターのこと？

それともホームベーカリーのこと？ いやいや、どれでもありません。

8月が近づくと、例年、戦争、敗戦、戦後、等の言葉が多く聞かれるようになり、生まれた後に長く生きてきたものにとっては、否応なしに過去の思い出がよみがえってきます

今回も「AVC」から大分離れてしまいますが、時節柄お許してください。

第二次世界大戦後、相変わらず続く食糧難の時代、そのころ援助物資などと言って小麦粉の配給がありました。その小麦粉を使ってパンを焼く、という器具がつかの間に生まれていました。

厚さ10ミリぐらいの木板を4枚組み合わせて長さ20センチ、幅12～3センチ、厚さ5～7センチぐらいの木枠を作り、相對する長辺の内側に銅版を貼りつけたものを板の上に載せます。蓋もあったと思います。2枚の銅板には、それぞれACコードの一端を接続しただけの簡素な構造だったと記憶します。

この器具の木枠の中に小麦粉を水に溶いてベーキングパウダーという「ふくらし粉」を混ぜたものを流し込み、ACコードをコンセントに差し込みます。最初は水分が多いから電気抵抗が低く、賑やかな音を立てて素材が暖まっていき、時間の経過とともに水分が無くなり、従って電気抵抗も高まり、電流が減って行って、パンのできあがり、となります。

どう言うメーカーが作っていたかの記憶はありませんが、今活躍している電機メーカーではない、名も無い所が作っていたと思います。

構造が簡単なので、当時、早速見よう見まねで作って見ました。銅板は手に入らないのでブリキ板を電極に使いました。ACプラグをコンセントに差すとしばらくしてパンが焼き上がります。理科の実験と食糧確保の両方を満たす楽しい実験でした。このパン焼き器で作ったパンはベーキングパウダーのせい、はたまた通過する高圧の電流のせい、電極近辺の部分に独特な味があり、その味は今では味わえない味（イオンの味？）、一寸変わったものでした。飽きられたのか食糧事情が良くなったからか、この「電気パン焼き器」はいつしか使われなくなり、短い間に市場から消えていきました。

よく考えると、通電して焼いている間に、パンの素材に触れれば感電するわけで、今の世ではこのような簡素な機材は絶対に売ることはいけません。敗戦後の混乱期を象徴する、なつかしい電気製品であったと思います。